

タイにおけるイスラームの複雑性と共生



【中野キャンパス】 人文社会学部 経営学科 経営コース 准教授

柴山 信二郎 Shibayama Shinjiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : タイ・イスラーム・ムスリム



研究の概要

SDGs 目標 1 : 貧困をなくそう

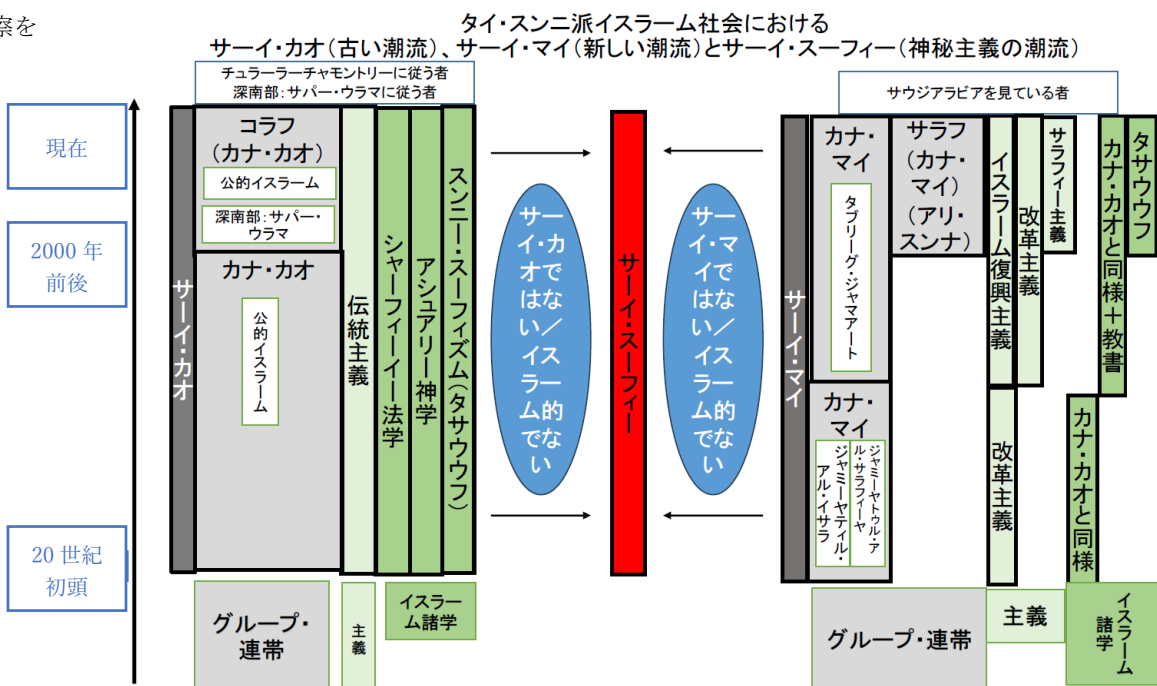
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

仏教国とのイメージが強いタイだが、イスラーム教徒も多数暮らしている。その内、98～99%程度がスンナ(スンニ)派で、1～2%程がシーア派だと推測される。タイのスンナ派イスラーム社会では古くからサーイ・カオ(古い潮流)、サーイ・マイ(新しい潮流)の2つの大きな潮流が見られた。2つの潮流間にはイスラーム思想と実践の相違から摩擦・対立が見られながらも、イスラーム社会内外において共生の努力をしている。

また、歴史の中で、それぞれの潮流においては異なるグループ(カナ)が出現し、一つの潮流にも様々な思想や実践が見てとれる。更に2大潮流に加えて、「イスラーム的ではない」と非難されるサーイ・スーフィー(イスラーム神秘主義の潮流)も観察できる。本研究では、タイのイスラームの複雑性の一端を明らかにし、そこで起こっている摩擦・対立と共生の取り組みについて検討・考察を

おこなっている。

なお、1979年イラン・イスラーム革命をきっかけにシーア派においても思想と実践の相違からカナ・マイ(新しいグループ)が起こっており、シーア派社会においても多様化が見られている。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界人口の約1/4を占めるイスラーム教徒であるが、思想や実践、イスラーム社会の実情はあまり理解されていない。多様な思想・実践やイスラーム社会で起きている摩擦・対立、共生への取り組みを解き明かすことにより、イスラーム金融やハラール産業等の独特の形態を持つイスラーム経済へのアプローチについて考える／再考する切っ掛けを提供できると考えている。また、イスラームの思想・実践及びイスラーム社会の複雑性を紐解き、実態を明らかにすることにより、イスラームフォビアの通減・解消を目指す。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【学術論文】

- ・「タイにおけるスーフィズムの継承・維持と広がり」
- ・「タイ深南部(南部国境地域)事情—その62～73—タイのイスラーム スーフィズム／カーディリー教団(1)～(12)」

【学術発表】・「タイのスーフィズム:カーディリー教団の系譜とネットワーク」